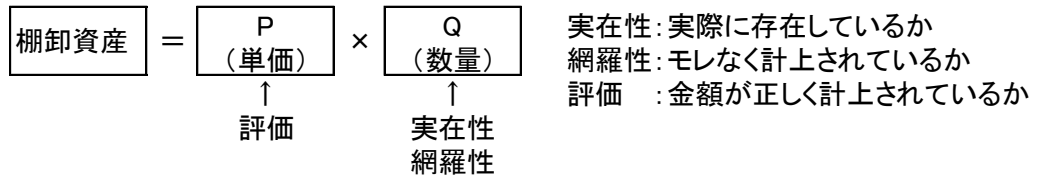


Q1 棚卸資産に係る会計処理のポイントを教えてください。

A1 棚卸資産は Price（単価）×Quantity（数量）として計算されますが、単価は評価の観点、数量は実在性・網羅性の観点として、整理されます。



解説

i) 棚卸資産の単価（評価の観点）

・棚卸資産の単価（評価の観点）は、評価方法と評価基準の2つから、以下のように整理されます。

評価方法 ¹	取得原価 = 購入代価(or 製造原価) + 付随費用 以下より、払出原価（売上原価）と期末棚卸資産の価額を算定。	
	個別法	個々の実際原価を使用
	先入先出法	最も古く取得されたものから順次払出しが行われ、期末棚卸資産は最も新しく取得されたものからなるとみなして計算
	平均原価法	平均原価を使用。移動平均法と総平均法がある。
	売価還元法	値入率等の類似性に基づく棚卸資産のグループごとの期末の売価合計額に、原価率を乗じて求めた金額を期末棚卸資産の価額とする方法。取扱品種の極めて多い小売業等で採用。
評価基準	原価法 (収益性低下に基づく簿価切り下げ)	【通常の販売目的】 貸借対照表価額 = 取得原価 ただし、正味売却価額 < 取得原価の場合、貸借対照表価額を正味売却価額まで切り下げる。
	時価法	【トレーディング目的】 貸借対照表価額 = 時価

¹ 後入先出法は認められていない。最終仕入原価法は、期間損益の計算上弊害がない場合や期末棚卸資産に重要性が乏しい場合においてのみ容認される。

ii) 棚卸資産の数量（実在性・網羅性の観点）

- ・棚卸資産の数量（実在性・網羅性の観点）の把握方法として、継続記録法（帳簿棚卸）と実地棚卸があります。原則として両者を実施しますが、重要性が乏しい場合など、継続記録法（帳簿棚卸）を省略して、実地棚卸のみを実施するケースもあります。

計算方法	意義	原則	例外
継続記録法 （帳簿棚卸）	在庫の受払をその都度記帳し在庫数量を把握する方法	○	省略
実地棚卸	実際の在庫数量を数えて実在性と網羅性を把握する方法。在庫証明の取得も含む。	○	○